中東・イスラーム研究センター

CMEIS: Center for Middle Eastern and Islamic Studies

学際性を特長とする総合的な中東・イスラーム研究を推進し、総合的な知を備えた次世代の研究者・専門家の育成を目指す

グローバル化が進む今日、パレスチナ問題やシリア内戦など、中東で起こってきた数々の事件は、難民の移動やテロの拡散などのかたちで世界の各地に影響を及ぼしています。反対に、世界各国は依然として中東の石油に依存しており、経済やビジネスにおけるつながりも年々強まっています。日本も例外ではありません。中東との政治的・経済的なパートナーシップの強化が進み、また、世界中から多くのイスラーム教徒が観光客や留学生として訪日しています。

このように、今日の国際政治における中東の重要性、国際社会におけるイスラームの存在感が増すなか、世界的に中東・イスラーム研究への学術的・社会的な注目と期待はいっそうの高まりを見せています。また、既存のディシプリンにおける事例研究として中東・イスラームが取りあげられることも増えており、政治学、社会学、歴史学、人類学、思想研究などそれぞれの分野において中東やイスラームを理解するための豊かな学知が築かれてきています。

「中東・イスラーム研究センター（Center for Middle Eastern and Islamic Studies、CMEIS〔シーメイス〕）」は、立命館大学の総合私立大学としての強みを最大限に活かし、多様な学問的背景を持ったスタッフの力を結集することで、学際性を特長とする総合的な中東・イスラーム研究を推進していくことを目指します。そして、最先端の研究の追求を通して、中東・イスラームに関する総合的な知を備えた次世代の研究者・専門家の育成に取り組みます。

言うまでもなく、中東とイスラームはイコールではありません。イスラームは、中東で発祥した宗教ですが、今日では世界中に18億人と言われる信徒を持つ世界宗教となっています。イスラームは中東だけではなく、反対に中東はイスラームだけではありません。CMEISの「中東・イスラーム研究」という名称には、中東とイスラームのそれぞれを研究することの強みを活かしながら協働していくことで新たな学知の構築を目指す、という意味が込められています。

研究：大学・研究機関の方へ

CMEISでは、①政治・国際関係、②文化・ジェンダー、③歴史・広域ネットワーク、④社会・経済システムの4つのアプローチ別にユニットを組織し、各領域の個別の研究を推進するとともに、中東・イスラームに関する最重要アジェンダ群に協働して取り組みます。既存のディシプリンの強みを活かしながらも、その有効性と限界性の両方を絶えず検討しながら、あらたな学知のあり方を模索していきます。

教育：学生・院生の皆さんへ

CMEISでは、スタッフによる研究教育活動を通じて、次世代の中東・イスラーム研究を担っていく若手の研究者・専門家の育成を目指しています。学部生・院生は、CMEISの活動を通じて、最先端の中東・イスラーム研究に触れるだけでなく、学部・研究科の違いを超えた知的交流の機会を得ることで、それぞれの関心や研究を深めることができます。学部4年間の学び、研究科での5年間（修士2年、博士3年）の研究、さらには、博士学位取得後のキャリア設計や就職を支援していきます。

産学連携：企業・財団等の方へ

CMEISは、①「学知の社会的発信」（イベントの開催や出版物の刊行など）、②「経済界・産業界との連携の強化」（訪日ムスリムへの対応、企業の外国進出、社会人の「学び直し」など）、③「国内外での学術ネットワークの拡大」（大学・研究機関との相互交流）、④「次世代研究者・専門家の育成」（上記①②③を担う人材の育成）の4つの領域において、その活動を社会へと開いていきます。

主な研究テーマ

- 歴史的シリアにおける国家変容の研究：混合的手法による新たな地域研究の開発
- 危機下の東アラブ諸国における社会的レジリエンスの実証研究：ヨルダンの事例から
- 危機下中東諸国における社会的レジリエンスの実証研究：ヨルダンのインフォーマルな資源配分を事例に
- 中東・イスラーム研究における学際性の拡張を通した次世代の地域研究の開発
- 歴史的シリアにおける「国家変容」の総合的研究：混合的手法による新たな地域研究の探求
- アジア・イスラームとポストコロナ社会発展の課題
- 計量テキスト分析を用いた現代中東における新たな政治的動員に関する実証研究
- ムスリム消費者のハラール認識と食品消費行動
- 中世のイエメンにおける人々の移動性に関する研究
- 20世紀初頭の西・南アジア境界域におけるアフガン人武器交易ネットワークの研究
- 中東の国家間対立と「公的イスラーム」の役割：国家の正統性と法学者ネットワーク
- 現代イスラーム世界における平和・共存構築に関する総合的研究
- イスラーム福祉制度を通した互助の信頼学：金融デジタル化を用いた寄進の新展開
- アジア・ムスリム諸国の相互扶助の新展開：ポスト新自由主義期のイスラーム経済再構築
- ヨルダン政治と部族社会：南部の政治・社会・経済に関する現地調査を中心に
- 現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向：過激派と対峙する主流派
- 民主化失敗以降のアラブ政治変動と穏健派イスラームの国際的思想構築
- 米国の対アフガニスタン政策の失敗の要因とアフガニスタンの今後
- 2011年革命後エジプト都市部における「ろくでなし」社会研究
- アジア・イスラームとジェンダー論
- ネット時代に復興する詩と語り物：アジア西方イスラーム圏のオーラル文化の現状と展望
- シリア難民の離散と生存基盤再構築過程：中東と欧州の地域間比較

センター長：馬場 多聞（文学部 准教授）
主な研究拠点：衣笠キャンパス
お問い合わせ：立命館大学研究部リサーチオフィス（衣笠） TEL：075-465-8306 FAX：075-465-8342 ✉：cmeis@st.ritsumei.ac.jp
https://www.cmeis-ritsumei.net/